

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「文章の要旨をとらえ、考えたことを伝え合おう」 教材名「見立てる / 言葉の意味が分かること / 【情報】原因と結果」

2 単元の目標

原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。（〔知識及び技能〕(2)ア）

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（C(1)ア）

事例と考え、原因と結果を関係付け、言葉についての文章の要旨を捉える学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（C(1)ア）	①事例と考え、原因と結果を関係付け、言葉についての文章の要旨を捉える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

事例と考え、原因と結果を関係付け、言葉についての文章の要旨を捉える。この教材では、事例と主張の図、要旨と自分の考えを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

段落の役割を短い見出しで確かめ、結論だけを抜き書きするのではなく事例との関係を説明させる。想定する難しさは、身近な言葉の体験談だけで文章全体の構成を捉えない。評価では、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しているかを、事例と主張の図、要旨と自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○言葉やものの見方に関する事例と書き手の考えを分ける。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	4～6 （本時）	○言葉やものの見方に関する事例と書き手の考えを分ける。事例が示す原因と結果を図にし、文章全体で伝えたいことを短くまとめる。自分の考えは要旨と分けて書く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	7	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導（4／7）

（1）本時の目標

事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。（C(1)ア）

（2）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この事例を省くと、書き手のどの考えが伝わりにくくなりますか」 【めあて】事例と考え、原因と結果を関係付け、言葉についての文章の要旨を捉える。 〈予想される児童の反応〉 ・例を短くしても考えは残す必要がある。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （分）	○「この事例を省くと、書き手のどの考えが伝わりにくくなりますか」 言葉やものの見方に関する事例と書き手の考えを分ける。事例が示す原因と結果を図にし、文章全体で伝えたいことを短くまとめる。自分の考えは要旨と分けて書く。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・例を短くしても考えは残す必要がある。 ・自分の感想を要旨に入れてしまった。	段落の役割を短い見出しで確かめ、結論だけを抜き書きするのではなく事例との関係を説明させる。 想定する難しさ：身近な言葉の体験談だけで文章全体の構成を捉えない。 評価では、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しているかを、事例と主張の図、要旨と自分の考えと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 事例と主張の図、要旨と自分の考えを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・自分の感想を要旨に入れてしまった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この事例を省くと、書き手のどの考えが伝わりにくくなりますか」。中央は、事例と主張の図、要旨と自分の考えに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

